

第8回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in 村山

【と き】平成22年10月19日（火） 14：00～16：00

【ところ】村山市 甌葉プラザ

【参加者】参加者総勢約280名



- 【1 東北中央自動車道へのIC（村山市内2箇所）の設置について（要望）】
- 【2 電気自動車の普及について】
- 【3 地域おこし協力隊事業について】
- 【4 青い身障者マーク駐車場の普及啓発について】
- 【5 障がい者の就労について】
- 【6 上山高等養護学校の改築について】
- 【7 村山特別支援学校楯岡校の施設整備について】
- 【8 つや姫について】
- 【9 子育てしやすい社会づくりについて】
- 【10 土地改良事業の予算措置について】
- 【11 ナラ枯れ・ブナ枯れ対策について】
- 【12 最上川沿いに桜を植えることへの妥当性について】
- 【13 東北中央自動車道が農産物直売所に及ぼす影響について】
- 【14 農業経営能力等向上のための研修に関するPRについて】
- 【15 地球温暖化と森林総合整備について】
- 【16 ナラ枯れ・ブナ枯れについて】

- 【1 東北中央自動車道へのIC（村山市内2箇所）の設置について（要望）】

☆金谷工業団地の会長をしています。東北中央自動車道の整備について、質問させていただきます。東北中央自動車道については、知事さんのご尽力により、村山市内に2カ所のインターを追加していただくことになりました。利用者にとって大変利用しやすい道路になります。私の金谷工業団地内の企業といたしましても、近くにインターができることにより、大変便利になることと考えております。ありがとうございます。供用まで、まだもう少しと思いますが、今後、周辺環境整備など

についてご検討していただきたいと考えております。県知事のお考えをよろしく申し上げます。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。追加インターチェンジでございますけれども、地域活性化ということで本当に大事なことではないかと思っております。やはり必要性は一番大事で、調査を実施しながら、村山市さんと協議を進めているところでございます。

今後、年内を目標にしまして、連結許可の申請に必要な事項を整備していきます。そして村山市さんとの協議を整えて、年度内に国への連結許可申請を行う考えでおります。追加ということでありましても、本当に前向きにやっていきたいと考えております。村山市長さんのお考えをどうぞ、申し上げます。

(村山市長)

おかげさまで調査費も付きまして、もうちょっと申し上げますと、河島街道にマックスバリューというお店がありますが、あそこにいった人は前からの予定インターチェンジ。後は尾花沢のインターチェンジまで **15 km**以上、設置の予定がないという状況だったものですから、それは困るということで、国にも強い要望、そして県のほうにも要望してまいりました。

おかげさまで **10**月の7日、**8**日。現地説明会も始まっておりまして、金谷工業団地周辺、それから大石田の関係もありますから、土生田の追分周辺、ここに2カ所、なんとしても県としても後押しをして実現をしたいという心強い吉村知事のご意見をいただいたものですから、市としても議会と連携をつくらなきゃならん。なんとしても実現をしてまいりたいということで、これからも県のほうとも連携をとりながら、がんばってまいりたいと思っております。

(司会)

それでは次にご質問のある方申し上げます。

## 【2 電気自動車の普及について】

☆木質バイオマス発電会社のものです。

われわれの仕事はフロンティア的な仕事なんで、非常にいろんなこと大変なことあるんですが、がんばっております。今後も環境に優しい電気を供給して地球温暖化防止、貢献していきたいなっというふうに考えてますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは社会に、環境に優しい循環のある社会、特に電気自動車に関する質問なんですが、昨年まで山形県庁に1台、それから村山市で1台、それから山形三菱自動車に1台ってということで、県内で3台が導入されました。

今年山形市など、次々と導入されておりますけれども、今後各自動車メーカーの新車種も次々と発表する傾向にあり、年々普及することが予想されます。そこで、今後県、市の電気自動車の導入、それから今年度の電気自動車の急速充電器の県庁施設を踏まえた充電器の県内各地

への整備など、電気自動車などの普及についてお伺いしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございます。村山市に環境型の企業があることを知りまして、大変心強く感じたところです。これからの環境、自然に優しい環境型社会、町ぐるみで、二酸化炭素をあまり発生させない、そういう社会づくり、これからどんどん政府のほうでも力入れていくと言っておりますし、ここ村山市さんで、先進的な取り組みができるのではないかと考えております。

今、電気自動車の話が出ましたけれども、急速充電器を今年の12月に県庁舎に整備しまして、運用を開始することとしております。

もう神奈川県あたりは、ガソリンスタンドに急速充電器を配置するように働きかけているやに聞いておりますけれども、電気自動車は二酸化炭素を発生させないわけですから、これからの時代に非常に必要とされる、分野だと思えます。

今はハイブリッド車というようなガソリンと電気と両方使え、ガソリンなるべく使わないで済むような次世代型の自動車が、結構売れているようではございますけれども、だんだんと電気自動車のほうになっていくんだろうなって私も認識しているところです。

そうですね、県としても地球温暖化防止のために、電気自動車、それからエコドライブの普及が重要と考えております。今後とも電気自動車の普及、啓発、そして民間団体の取り組みなどに対する支援を続けていきたいと考えております。

昨日、今日と実はトヨタ関係の役員の方と私はお会いする機会があったんですけども、その時にも、これからエコ社会というものをつくっていくことが大事だっていう話になりました。一つの地域社会で、電気で全てが回るような社会がこれから先行モデルとして作られていくといいねって話になったんですけども、村山市さんは本当に先進的な取り組みをさせていただいていると私は思っております。市長さん、どのような取り組みをなさっているのかぜひ、お聞かせください。

(村山市長)

村山市らしさと私はいつも、市の職員にも市民の皆さんにも話をしています。果樹地帯でありますし、日本で一番早く環境型企業が村山市に進出してくれましたから、そこと連携をとりながら環境都市村山市つくっていきましょうということで、県と一緒にいち早く電気自動車を導入させていただきました。この企業と契約をして、市内の小学校、中学校、それから市の庁舎、クアハウスなど11施設、でその電気を使っております。地球に優しい、食料の地産地消というものもありますが、私は電気の地産地消、これは更に進めてまいりたいと思っております。

これは果樹農家の皆さん、農協の皆さんとも連携をとりながら、そして何よりもやっぱり県との連携プレイをしなければと思いました。しかし村山市の場合は東沢公園、観光地でございます。クアハウス、観光宿泊されます。そこに泊まっている間に、電気自動車で来てくれた方を、充電をさせていただく。そのための充電施設です。ご支援をいただきながら、そういう環境都市村山市、さらに進めて

まいりたいと思っております。

(司会)

それでは他にご質問まだある方。お願いします。

### 【3 地域おこし協力隊事業について】

☆こんにちは。市内で農業をやっております。今年行政からの支援をいただき、地域おこし協力隊として、5人の女性が委嘱を受けて、地域社会で交流を深めながら、農業に従事しております。

山形県でもこの地域おこし協力隊が9月補正で予算化されたと聞いております。このことについて知事さんのこの事業に対するお考えを聞かせていただけますでしょうか。

(知事)

はい、ありがとうございます。農業の担い手の確保、そして育成というのは今後の山形県の農業振興を図る上で本当に私は喫緊の課題だと考えています。このために、9月補正で、青年農山漁村協力隊プロジェクト事業というものを予算化していただいたわけでございます。

これは首都圏の若者を県内に受入れまして、地域農業の担い手をはじめ、伝統行事、高齢者とのふれ合いなどを通じ、地域の特定の課題解決を図っていくことで、地域の活性化、そして担い手の確保に結びつけていきたいという目的でやることでございます。

その他にも、県では首都圏での就農相談会、また、県内先進農家などでの1年間の実践農業研修をはじめ、営農開始の際には機械、施設などの整備への助成も行っています。また、就農5年間の経営費用に対する助成など、資金面でも援助を行っています。

また、定着に向けてですが、各農業技術普及課がカルテを作成し、5年間継続して重点的に個別の指導や助言を行っております。本県の場合やはり、農業人口、高齢化しているということもありまして、喫緊の課題であり、もう来年度もしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

首都圏の若者が、農業の素晴らしさに気づいて、また、彼らによって地域の良さというものを、地域の人々自身が再発見するようなこともあります。課題もたくさんありますが、一つ一つ着実に、地道にやっていくことで、将来に繋げていかなくちやならないと私は考えています。

ちょっと話外れるんですけども、東山紀之さんという俳優、元少年隊なんです。この間、県庁に映画の件で表敬訪問していただきまして、その時一冊の本をくれたんですね。「カワサキ・キッド」というご自分の書いた本をくださったんで、家に帰ってから読んでみたんですけど、生い立ちから始まって書いてありまして、芸能活動以外に、何もしないって言ってるんですけども、絶対何か一つしたいことあればと突っ込んで聞かれた場合は、「それは農業です」って書いてあるんですね。「農業っていうのは素晴らしい産業だ」っていうふうに彼は書いています。

やはり、人間の命を繋ぐといいですかね、素晴らしい産業だっていうふうに、そのように東山君が本の中で書いてくれたと私、嬉しくなりましたね、今度山形に来たらぜひ、農業の現場に連れて行ってですね、ぜひ農作業を経験してもらいたいななんて、私は勝手に思ったところですけど

も、農業っていうのは山形県らしい教育というものを考えた場合にも、非常に農業を体験することで命を育てるとかですね、また、大自然相手の仕事でありますから、なかなか思うようにいかないところもある。

まず素晴らしい成功体験ばかりじゃなくて、挫折とまで言えるかどうか、本当に思いどおりにいかないこともあるんだというその課題を解決していく、いかなきゃならないというようなことも含めて、非常に教育にもものすごく役立つんじゃないか、人格形成にもすごく役立つんじゃないかというふうに思っております。

それはなんか新聞で、読みましたけれどもガールズ農場さんでも女子大生を受入れてくださって、研修させてくださっているというようなことを目にして、読みまして、非常に心強く感じたところです。

これからもですね、日本全体がですね、私はそういう農業体験というようなことを通して、しっかりした社会人になってほしいなと思っておりますので、山形でできること、たくさん発信できるんじゃないかと思っております。

そのような人間形成も含めましてですね、地域づくり、農業の振興というものは、本県の場合は大きな課題であって、私はもう命題だっているふうに思っております。農業振興ということをしっかりところ、就任当初から掲げておりますので、皆さまからご協力をいただきながら、ご理解いただきながら一緒になってその山形県を活性化していきたいというふうに考えております。総合支庁のほうから補足をおねがいします。

(総合支庁)

産業経済部長でございます。知事が全て申し上げてしまいましたので、補足するところは特にないんですけども、やはり農業を起点とした **3,000** 億円ということで、山形県を元気にしていこうということでもあります。

そのために生産、加工、技術、販売そうした各面での施策を打っていくわけですが、その手前にやはり、その手前にあるのが担い手であり、地域の振興、地域づくりであるというふうに思っておりますので、そうした面で総合支庁としても精一杯応援させていただきたいというふうに思います。

(司会)

ありがとうございます。それでは他のご質問の方。お願いします。

#### 【4 青い身障者マーク駐車場の普及啓発について】

☆ 村山市身体障がい者福祉協議会の会長で山形県の身体障がい者の総代でもあります。

知事さんには心の通う温かい県政を目指して日夜精力的に奮闘されてること、本当にご苦労様でございます。

実は社会的弱者と言われる身体障がい者の駐車場のことについてであります。平成 **11** 年に、山形県まちづくり条例が制定されました。これはものすごく素晴らしく、良い条例だと思います。

その中ではいろいろな多種多様なことが書かれておりますが、中でも官公庁、公共機関、民間

施設、事業者を問わず、入り口に最も近いところへ青色ペンキで車いすのマークが塗っているところがあり、それぞれの機関が設置することを目的とすることです。

今、県内を見ると、車いすの標示をしているものは山形県の機関で、**80%**から**90%**ぐらいでしょうか。民間の事業者で**10%**弱、ほとんどありません。車いすの標示はぜひ必要であると思います。世はまさに車の時代であります。金銭的にも、一万円もあれば、十分できると思われま

す。これは単に小さな問題じゃなく、山形県の身体障がい者、福祉協会の山形県内の**55,000**人にとっては大きな課題であります。

私たち手や足の悪い人にとって、車は体の一部です。町で買い物に行くにも、病院に行くでも、官公庁、その他の集まりに行くにも、ものすごく便利で本当に助かります。車いすの標示もあるとなしでは、雲泥の差があります。

今こうして、身体障がい者の役員の方々**15**、**6**名が来ております。従って、何か良い方法はないのか、アイデアと知恵を出し合い、いろいろと検討し、私は一つの方法として、山形県民の愛で、一般社会、一般市民、県内**120**万人にも分かるように、山形県の広報に掲載して、ピーアールしていただければ効果は抜群であり、大変ありがたいと思うが、どうでしょうか。

(知事)

はい、本当にありがとうございます。そして皆さんと一緒にいらしていただいて本当にありがとうございます。駐車スペースで、身体障がい者の方のための青色に染めるということについてご提案がありました。「県民のあゆみ」でも広報やってほしいというお話であります。ありがとうございます。

私もですね、身体障がい者の方々にとっての、車は体の一部だというふうなお話伺いましたけれども、本当に車、大切なものだと思います。

それで、駐車場の中に、身体障がい者の方が利用できるよう青色に塗られていますと、一目で身体障がい者の方の駐車するスペースだってことが分かりますし、また、心ない人がそこに止めたりもするらしいんですけども、不適切な駐車防止ということにも効果があると思っております。

実は「県民のあゆみ」で前にも県民に周知したことがあるんですけども、ただ、今ご提案いただきましたので、これからも「県民のあゆみ」や県政テレビ番組なども活用し、お店や建物に駐車場をお持ちの方々に、青色駐車スペースの趣旨というものを広くご理解いただくための広報というものをやっていきたいと思っております。ご提案ありがとうございます。

(意見者 続いて)

それは高齢者も、妊産婦も同じであります。

(知事)

そうですね。そうです、高齢者、みんな必ず年をとるわけですから、高齢者と本当に、わが家にも**89**歳と**82**歳の親がおりまして、やはりだんだん、足が大変だつたりもいたします。とても大事なことだと思っております。

また、赤ちゃんを抱えている若いお母さんなんかですね、やはり暮らしやすい過ごしやすい町にしていかなきゃいけないと思うんですよね。だからみんなにとって住みやすい、まちづくりというのがとても大事なことだと思っています。

山形県がみんなにとって、暮らしやすい県になるようにがんばっていきたいと思います。今日はご提案ありがとうございます。

(司会)

次の方、お願いします。

【5 障がい者の就労について】

【6 上山高等養護学校の改築について】

☆ 村山市の富並地区の者です。障がい者の雇用について、質問というより現状の要望みたいなものになってしまいますけども、よろしくお願いします。

私の次男は、上山の高等養護学校の3年生です。私ども保護者が学校のほうに月に2、3度行く機会があるんですが、なかなか古い校舎で、今時このような古い校舎は県内探してもないくらいの校舎で、場所を探すにもちょっと何度も迷うことがあるくらいちょっと古い校舎なので、今後の生徒のことも考えて改築なども検討していただきたいということと、雇用についてお願いします。

私も実際に障がい者を持って、現実の厳しさに突きあたって言うのですが、生徒たちは一般就労に向けて、日頃から一生懸命学校で努力をしているのですが、この不景気の中、一般の新卒者、一般の職をなくした方ですら、就職が非常に厳しい現状の中で、ましてや障がい者ということで、なかなか受入れてくれる企業がほとんどありません。

先日の障がい者面接相談会にも参加しましたが、41社の会社が参加していただきましたが、そこに192名の障がい者の希望者がありました。私のところにはまだ、その面接をしていただいた会社からも、まだその後の結果の連絡はありません。

度々新聞にも雇用対策などが載っている現実ですが、障がい者のことは、なかなか新聞にもあまり取り入れられてもらえないような現実です。親として例えば、県の施設とか村山市でもこのような甌葉プラザとか近くにも老人ホームなどができて、職員採用募集などが載っているのですが、そのうちの何人かを障がい者を受入れる体制などとか、そういう行政の理解も民間ばかりではなくて、行政の理解をもっと示していただきたいと思います。知事さんとして、母親としての立場から、お考えをよろしくお願いいたします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。今、全国的に、また県内はもちろん、不況で、雇用の大変な厳しい状態でございます。昨年よりは若干は良くなっているんですけども、依然として厳しい状況でございます。

ただ、また一方で、知的障がい者の方がその能力を発揮して、地域で自立した生活を送ってい

けるそういう社会を、社会環境を整備していくっていうことも大変重要だっというふうに認識しております。

県では就労移行支援、それから就労継続支援などの就労関係のサービスや、障害者就業・生活支援センターによる相談支援、また職業訓練などを市町村や関係機関と連携しながら充実を図っているところでございます。

お話にありました、特別支援学校の生徒さんの就職支援につきましては、各学校において就労に向けて保護者の方と相談、連携を図りながら、産業現場等における実習を重ねて、一人一人にマッチングする就労先確保に務めているところでございます。ただ、おっしゃるようになかなか一挙にははかどらないということも、お聞きしてはおります。

また、県教育委員会では、これまで生活してきた環境に近い場所を就労先とすることで、次の就労に繋がるように特別支援学校ステップアップ雇用事業というものを実施しております。現在県内の4つの特別支援学校において、重度の障がい者を雇用しております。

また県、知事部局では、積極的に障がい者の雇用を促進する必要があると考え、今年度から身体障がい者を対象として、一般事務職員の採用試験を実施しているところでございます。

障がい者雇用促進ということにつきまして、身体障がい者に限られた問題ではなくて、知的障がい者の雇用についても引き続き検討していかなければならないというふうに考えております。

今年の7月から県庁内の関係課、それから外部の関係機関が構成するワーキンググループを設置しまして、障がい者雇用を拡大するための諸課題、それから県における知的障がい者の方を継続的に雇用する新たな制度についての検討を行っております。平成 24 年度採用を視野に入れた検討なんですけれども、できるだけ早く、できるだけ早期に、知的障がい者の方の雇用というのが実現できるように取り組んでいるところでございます。

県がこうやって取り組むということで、市町村、それから民間企業含めた全体で、障がい者雇用の取り組みが広がるようにしていきたいというふうに考えているところでございます。

なかなか厳しい課題はたくさんあるんですけども、県としては着実に一步一步取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。村山市さんのほうは、雇用についてはいかがでしょうか。

(村山市長)

市のほうでは、国の基準に沿った職員採用しているんですが、やっぱり地域の関係ではちょっとまだ、という思いをしております。それで今、隣接の市と連携をとりながらやっているのが就労支援施設、東根市に「こすもすの家」、「大けやきの家」というのがございます。村山市には「ひなたぼっこ」というのが元気館の中にあります。そして尾花沢市には「はながさ」。それでできるだけ地域で連携をとりながら、県とも連携をとりながら、進めるようにがんばってまいりたいと思います。

(司会)

それでは、次のご質問ある方。お願いします。



【7 村山特別支援学校楯岡校の施設整備について】

【8 つや姫について】

☆ 私は、村山特別支援学校楯岡校の **PTA** 会長です。

まず初めにこういう機会をいただいて、学校現状を知事さんのもとより、市民の皆さんへ知ってもらうには絶好の機会かなと思ひまして、出席させていただくことにしました。

また、これから話す内容は県議会中の9月29日に知事さんとこにもお尋ねしまして、お話しした内容と同じです。

今日私が話させていただきたいのは、楯岡校の教室や体育館等の施設、施設の整備を急いでいただきたいというような要望です。

一昨年、**21** 名で学校がスタートしてから今年で3年です。生徒数は **63** 名、3倍増になりました。先生方、教職員方含めると **100** 名を超える大所帯となっています。北村山からそれから天童市、それから寒河江市というふうに通学範囲も広がっております。それだけ地域から必要とされている学校になってきてるんじゃないかなというふうに思っているところです。

ただ、生徒増とは裏腹に設備のほうがなかなか追いついていない、あるいは増えたことによって、手狭になってるというような現状ありまして、例えば体育館ですけれども、村山農業高校さんの体育館をお借りしているんですけれども、8月から屋根の葺き替え工事が入りまして、体育館使用禁止となってしまうました。子どもたち体育の授業が学校周辺の散歩になってしまひまして、雨の日はどうやってるのでしょうか、そんな現状で体育館があれば、小から高校、**18** 歳までの子どもがのびのびとできるんじゃないかなということで、たかだか隣りなんですけど、なかなか上手く利用、活用できない現状で、大変苦しんでいるところです。

それからプールは2kmほど離れた大倉小学校っていう小学校のプールをお借りしているんですけれども、2kmも離れておりまして、今年は、酷暑でしたけども、夏休み前の7月の **20** 日頃にもうプール授業が終ってしまいました。夏休みが明けてからもプールに入れてあげたいような天候でしたので、ぜひとも自前のプールがあれば、そういうふうに思ったのです。

昨年は雨の日ばかりで、雨の日もプールに入ったようなことで、ダウン症っていいですか、障がい、知的障がいの子は特にプール、水は大好きなんで、プール授業は、夏の授業としては大変いいんじゃないかなというふうに、そういう設備があればなというふうに思っているところです。

それから子どもが増えたんで、教室、空き教室もなくて、自閉症の子どもでちょっと乱れた子どもがクールダウンするような、自分を落ち着かせるようなスペースもない状況で、子どもは、なんていうか、息苦しい状態であるときに急増しているような状況です。

水道であつたり洗面所とか、トイレとかも不足しておりまして、地域に必要とされてる学校にどんどん中身もハードウェアの部分も整備できていったらなということで、**PTA** 会長の私としては大変やきもきしているところです。ぜひともそういう整備のほう、急いでいただければなあというふうにお願ひにあがった次第です。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

これまで特別支援学校というものが村山地区になかったということがありまして、特別支援学級に在籍していた児童生徒の皆さんが、特別支援学校の中等部、高等部に入学するようになったということもありますし、また開校してから学校の評価が大変良好だっというふう聞いております。保護者の方が実際に学校を見学できるというようなことがあって、入学を希望する保護者の方が開校前よりも増加しているというふう聞いております。

また、地域の皆さんの理解・協力がとてもあって、地域の学校として好意的に受入れてくださっているというふうにも聞いておりますので、そういうことで生徒さんが増えているのかなというふうにお聞きしております。

私は心の通う温かい県政というものをずっと標榜してきましたけれども、それはですね、やはり対話するというのを大事だというふうに思っております。

ご存じのようにやはり、市も県も国も財政事情というのはどんどん厳しいものが、まあ、どんどん厳しくなっているような状況もありましてですね、何でもかんでも建物できるとかですね、そういうことが、いわゆるお金のバラ撒きみたいなことができるというような意味での温かい県政ではないんです。

このようにお話を聞きまして、こちらでもできる範囲内で、できるだけのことをしていくというようなことになろうかと思っておりますけれども、それにしてもやはり、その対話を始めないと何事も始まらないわけでありまして、今もさまざまなことをお聞きしましたので、できることから始めさせていただきたいというふうに思っております。分かる範囲で教育委員会からお願いします。

(教育事務所)

村山教育事務所長です。どうかよろしくお願ひいたします。村山特別支援学校については平成**20**年4月に開校され、おかげさまで今年で3年目を迎えました。

開校にあたっては平成**17**年より入学意向調査をさせていただいて、その結果を踏まえて在籍**42**名、**15**学級を想定して開校いたしました。しかし、開校当時の在籍数は**21**名、9学級というふうに変、少ない人数でのスタートとなりました。

しかしながら、特別支援学校の周知が図られるとともに、より専門的な教育を望まれる保護者の方が次第に増え、**21**年度には倍の**42**名、**14**学級。今年度は**63**名の、**15**学級と急激な増加になりました。

来年度は**77**名、**18**学級とさらに増加が予定されておりますので、今年度4教室を増築して教育面に支障のないように対応してまいりたいと考えております。また、その後につきましては、在籍数の推移をみながら、さらに検討してまいりたいと思っております。

また、体育館については先ほどお話あったように、8月より工事のため、ご不便をおかけしております。**11**月からは使用できる見込みとなっております、ご理解お願ひしたいと思っております。なお、水道等の設備については計画的に整備をしてまいりたいと思っております。

なお、独自の体育館、プール等については、厳しい財政事情もありますので、長期的な課題とし

て検討してまいりたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

(発言者 続けて)

学校は村山農業高校と一緒にいろいろ活動させていただいたり、大変恵まれた環境にあって、学ぶ子どもたちは大変喜んでいきます。動物とふれ合ったり、畑をお借りしたり、農作業と一緒にやったり。

新聞等々にも発表ありましたように、ブドウ食べたりとか、いろいろ交流あって、大変恵まれた環境でありますので、ぜひとも、いい学校ですのでいろんな面でいい学校になっていけたらなあというふうに思います。

あと、蛇足ながら私、農業者なんですけれども、先日福島、会津の大学の後輩からメールありまして、つや姫の評判がすごいと。それで、福島でもマスコミの取り上げ方がすごいんだけど、どうしたんだい、というような、嬉しいメールをいただいた次第で、私、一農家としてもなんか嬉しいメールいただきました。

福島の会津の大学の後輩がメールくれてまして、春はね、あんまりつや姫っていう言葉をうっすらあんまりピンときてなかったようなんですけれども、この秋つや姫を迎えて、つや姫っていうのがいろんな方面から福島の中でも取り上げられて、大変いいお米だねってなことで、そんなメールいただいて、はい、以上です。

(知事)

ありがとうございます。なんか嬉しくなりました。本当につや姫っていうのは山形県が12年ぐらいかけて開発してきたお米で、育てやすいし食べておいしいという、日本一のお米だと私は自負しております。

昨日なんか、スマップの番組で、これ山形県の新しいお米だというふうに紹介あったらしいし、今日の朝6時テレビでもなんか山形県のつや姫だということで、テレビで出ていたようであります。

そこここでなんか取り上げてくださっていて、大変私はありがたく思っていますし、山形県なんていうんだらう、ネームバリュー、今のところさくらんぼなんですけれども、次にラ・フランスぐらいがくると思えますが、つや姫ということで山形県は米もちゃんと作ってるんだということをやはり、全国的に知っていただきたいし、全国でもトップブランドという感じで、がんばっていきたい。

そういうことで山形県全体の私は元気がでてくることにも繋がっていくというふうに思っておりますので、いや今の、大変ありがたい情報であります、ありがとうございます。

(教育事務所)

先ほど上山高等養護学校さんの建物についてもご質問がありました。

今現在、子どもたちの安心、安全のために耐震工事を優先してさせていただいておるところで、それが終わりましたら順次、計画を検討させていただきたいと思っております。

(司会)

それでは他にご発言のある方、お願いします。

### 【9 子育てしやすい社会づくりについて】

☆こんにちは。NPO 法人ポポーの広場の者です。この甌葉プラザの2階の親子交流広場を運営しています。

3月に施行された山形県子育て基本条例の前文には「お互いさまの心」が、山形らしい風土を生むとあり、行政、県民、企業などの協力や連携が強調されていました。血の通ったとても温かい条例だと思います。

今、子育て支援や少子化対策と称されるものは、子育て家庭にいかにかサービスを提供するかに集中していて、基礎自治体がまるで競うように手厚いサービスを掲げています。

でも、これでは子育て家庭が待遇のいい町に移住するだけで、真の少子化対策にはなっていないし、自治体も息切れしてしまいます。一方的にサービスを提供するだけで、子育て家庭に小さい子を育てているから何もできないと思わせてしまうようなことは避けなくてはなりません。

子育て支援の現場にいて思うのは、お客さん扱いではなく、自ら立ち上がってもらう機会の必要性です。乳幼児を抱えていても立派に社会貢献ができると自信をもってもらいたいです。

例えば先日、楯岡高校の家庭科の授業に協力をお願いしました。子連れで高校に行き、わが子を高校生に抱かせ、いろいろと話しかけてもらうというものです。若いお母さんたちはこちらが驚くほど協力的でした。こちらが頼み込むまでもなく、積極的に申し込まれる方もたくさんいらっしゃいました。そして3日間、合計6時間もの授業協力をしっかりと務め上げてくださったんです。乳幼児の母親たちは弱いどころか頼もしい存在なのです。

次世代育成という言葉は未来を担う子どもたちを育成する意味で使われていますが、先輩世代が後輩世代を育成するという意味にも解釈できないでしょうか。

若い親に近い将来親になる高校生を支援するのも次世代育成といえるのなら「お互いさまの心」はますます広がり、総ぐるみの子育て支援に近づけるものと思います。新しい子育て基本条例に心から期待しています。

(知事)

どうもありがとうございます。本当に今、実効性のある取り組みについてご紹介いただいたというふうに思っております。今、ご紹介いただいた山形県子育て基本条例、今年の3月に制定いたしました。

また、昨年度10月に、「山形みんなで子育て応援団」ということもキックオフいたしまして、県民総ぐるみとなって子育て家庭を応援する活動を展開しているところでございます。

また一方でお話があったようにですね、乳幼児を抱えていても社会貢献できるんだっていうことをやはり、しっかりと認識していただくことも私は大事だと思います。

赤ちゃんの時からもう実は社会人だっていうふうに、もうお腹の中にいるときかもしれませんけれ

ども、まず赤ちゃんの時から幼稚園、小学校、中学校はもちろんですね、社会、その他立場、立場でもう社会人だというふうには思っております。

学校卒業したら社会人になるっていう言葉よく使われますけれども、そうではなく、小さい頃から赤ちゃんの時からもう社会人なんだと、社会の中の一つの役割を担っているんだっていうことをこれからやはり、しっかりとですね、社会全体で私は考えていったほうがいいんじゃないかなってふうに思っております。

本当に若いお母さんが赤ちゃんを、小学生や、中学生や、高校生に見せる、抱っこしてもらう、そのようなことで本当にいろんな役に立つと思います。今、赤ちゃんに接したことがない人とか、おじいちゃんおばあちゃんと暮らしたことがない人がたくさんいます。特に都会の子に多いです。

先般、県庁に東京の小児科医のお医者さんがいらっしゃいましたけれども、その時に声をひそめておっしゃるのはですね、「今の若いお母さんで、2、3カ月の赤ちゃんを、泣き止まないっていうんで平手でたたいてる人もいるんだ。」赤ちゃんがどういう存在なのかということをつかめない、壊れ物みたいに、大事に大事に扱わなければいけないというようなところから、まず若者に教えていかなくちやならないとお聞きしたわけでございます。

また、これは山形県内のある保健師さんのお話ですけども、相談の電話がかかってくるんだそうです。うちの赤ちゃんのおしっこが水色にならないと。テレビのコマーシャルでおしっこがこう、水色に広がっていく、そういうコマーシャルなんですけど、それ赤ちゃんを知ってる人は、水色に色つけてるんだって分かるんですけど、そうじゃない人は、おしっこは水色だっていうに思わないで、うちのがちょっと黄色いからおかしいんじゃないかと。いや、本当にそういうことが起きてるんですよ。ですから、やっぱりもともと、赤ちゃんとかね、小さい子どもってこういうもんなんだっていうことを、今、本当に核家族が多いですから、やはり若いときに何ていうのか、教えておくとか、実際に見せるといいますか、百聞は一見にしかずで、何かの機会をとらえてそういう場面をちゃんと作っていかないと社会になっているんじゃないかなというふうには思っているところです。

今、本当にありがたいことを言っていたいたんですね。今のお話を参考にさせていただいて、ぜひ、いろいろな活動、取り組みというものにですね、若いお母さん方にもお役に立っていただきたいと思っておりますし、教育場面でもやはり考えていかなければならないのかなっていうふうに思っております。

県の取り組みなんですけれども、「やまがた子育て応援プラン」の後期計画というものがあって、そこでの具体的な施策というものを進めてまいります。

「やまがた子育て応援パスポート事業」というのがあります。それは今年度、それまで妊婦または就学前の未就学児のいる世帯だったんですけども、それから妊婦または小学生6年生までの子どもがいる世帯に拡大いたしました。

そして「安心こども基金」というのがありますが、それを活用して幼児用便座の配布、また公共施設などへのおむつ交換台の設置などをいたしまして、赤ちゃんがいても外出しやすい環境整備というものを進めているところでございます。

また、精神的な取り組みとしましては、現在子育て家庭に優しい「子育てタクシー」の導入を促進

しておりまして、今月末には出発式を行う予定でございます。今後も子育て家庭の支援の取り組みを推進して「子育てするなら山形県」というものを実感できる社会の実現を目指してまいりたいと思っております。

また、真の少子化対策になっていないのではないかというお話でありますけれども、私もその懸念を感じておりまして、少子化対策を行うためには子ども手当というのはもちろん必要だと思っておりますし、プラスして現物手当ということも必要だと、サービス給付というようにいわれておりますけれども、それも必要だし、それと働き方の見直し、子どもさんのいる家庭は例えば短時間で済むとかですね、いろいろな見直しも図っていけるように、また、赤ちゃんが、子育てが一段落したらまた職場に復帰できるとかですね、さまざまな観点から取り組んでいかなければならないと思っております。

それから結婚の応援。これ合わせて私は4点セットといっているのですが、知事会でも言っておりますし、国の厚労省、内閣府にもそのことを提言しているところです。

少子化対策、簡単には解決しないですけれども、今しっかり取り組んでおかないと **10** 年後、**20** 年後が大変な人口減少、ますます加速すると思っておりますので、この4点セットをしっかり日本の場合は取り組んでいかなきゃいけないんじゃないかと思っております。

ここに、村山市さんから見せていただいた資料の中に、婚活の事業のことも載っております。県もがんばってまいりますけれども、村山市さんのほうでもそういう取り組みをなさっているようでございますので、市長さんからご紹介いただければと思います。

(村山市長)

はい、一つ最初の件申し上げますと、おかげさまでこの甌葉プラザ、スタートに合わせまして子育て支援センターに入らせていただきました。

ポポーの広場について、大事な部門も担っていただいております。

その他にも学童保育なども入っております、やっぱり子育ては先ほど吉村知事のほうからもあったんですが、やっぱり社会全体でということは、保護者家庭から地域の皆さんから、行政から、やっぱり一緒になって子育てをしよう、そういう体制を作らないと、私はだめだという考えをもっておりまして、一つ一つそれを実践していこうということで、ここもスタートしたんですが、学童保育は西郷地区と袖崎地区でございます。

そして先ほど楯岡支援校、学校の話もされたんですが、**63** 名おられる中で **34** 名がいわゆる学童保育、保護者の皆さんが働いているものですから、市のほうでなんとかやれ、という要望あったものですから、県立でやってもやっぱり子育て、それは村山市にきていただいたわけですから、村山市で育てていこうという **PTA** 会長さんとも話をしながら、4市2町の子どもさんがきております。

北村山3市1町の他に、天童市、河北町きておりますから、その子どもさん **34** 名、村山市が2時から、保護者が帰ってくるまで6時ちょっと過ぎまでの希望者もおりますが、これは村山市の子どもだけじゃなくて、楯岡高校に入ってる子どもさん、保護者が迎えに来るまで、元気でがんばっておられる、といういきいき元気館で、社会福祉協議会がそれを請け負ってやっております。

やっぱりそのように、先ほどあったように、いろいろなそういう子育て支援、そして婚活についても、

ここが最初に申し上げましたように、出会いの場であれ、交流の場であれ、にぎわいづくりの場である、町づくりの場である。そういう考えをもちながら、ちょうどオープンカフェもありますから、そこでも連携をとって若い方々が集まっていたく、そういう事業をこれからも積極的にやっていこうということで、新年度はその係りなどもつくっていこうという考えをもっておるところです。県が方針を出してやっていますから、連携をとってやれる、村山市も体制をつくらなきゃという思いをもちながら地域の皆さんと一緒にがんばってまいります。

(司会)

ありがとうございます。それでは次の方、お願いします。

#### 【10 土地改良事業の予算措置について】

☆ 富並川伊蔵堰土地改良区の者です。先ほど知事さんから農業に対しての力強い言葉いただきましたので、本当にありがとうございます。私のほうからは土地改良区の事業に対してのお願いでございます。

当地域の農業農村整備につきまして、平素より格別なご支援賜り、厚く御礼を申し上げます。当地域の圃場整備は、県営事業として、平成9年度に**309ha**ほどの完了しております。団体圃場整備では、早い地区では昭和**51**年度に完了、現在**30**数年経過している状況にあります。

水利施設では伊蔵堰頭首工が県営かんがい排水事業とし、平成**21**年度に完了し、これら農業農村整備事業により、安定的な稲作農業が行われるようになり、多大な恩恵を受けていることに対して深く感謝申し上げます。

しかしながら、当地域には未だに未整備地が点在し、さらに事業完了後**30**数年経っているため、用排水路の老朽化や崩れ等が目立ち、農道に至っては現在の大型農業機械が入れないという不便さがきたしております。

そこで県と協議の上、平成**23**年度に**48ha**ほどの経営体育成基盤整備事業を計画したところがあります。この地域には関係者が**37**名ほどありますが、その半数近くが**20**代、**30**代の後継者がいる地区でございますので、よろしくご理解のほどをお願いいたします。

また、民主党政権になりましてから、1年3ヵ月ほど経つわけでございますが、われわれ土地改良関係者には非常に厳しい査定がされております。このような厳しい状況をご理解いただき、未来ある農業農村の確立ができますよう、2点について特段のご配慮をお願いいたします。

1点として、農地や農業技術は食料生産の基礎とし、必要不可欠なものであり、農業農村支援事業の推進に必要な平成**23**年度における必要な予算措置を確保することをお願いします。2点として、新西地区の経営体育成基盤整備事業の平成**23**年度の新規採択をお願いいたします。以上です、よろしく申し上げます。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。優良な農地、そして農業用水の安定確保は農林水産業の再生

のために大変重要であると考えております。これらの農業生産基盤の整備を計画的に進めていくべきと思っております。

基盤整備は、権利関係を含めて地域の農業構造を根本から変える事業でありますから、整備に合わせて分散したほ場について、担い手への面的集積を図り、生産コストの低減や園芸作物等の導入による農業産出額を拡大する取り組みを推進しております。

こうした整備をすすめるために今後とも国の予算動向などの情報収集も行いながら、必要な国庫の補助事業の導入というものを、もっと努めてまいります。今、お話のありました、新西地区の経営体育成基盤整備事業につきましては、平成 21 年度から土地改良区が主体となって権利調整や合意形成等にあたられたわけでございます。

また今年度については、県と一緒にした事業計画の作成というものを行い、平成 23 年度の事業着工に向けた準備が整っておりますので、こうした取り組みに応じていくため、新規採択に向けて担当部局に今、検討させているところでございます。総合支庁からそのことについて、補足をお願いいたします。

(総合支庁)

産業経済部長でございます。ご承知のとおりですが、22 年度の国の農業農村整備の予算は、非常に厳しゅうございました。

また、23 年度においても今後の概算要求が予算編成という形になる中で、どのようになっていくかというの、なかなか予断は許さないというふうに感じております。

そうした中で土地改良基盤の必要性、それぞれの地区の特殊性、そしてそれが農業の生産基盤としてどういうふうに活用されていくかということを十分に踏まえさせていただき、土地改良区の方々、そして市の方々としっかり検討をして、予算がつかれるかどうかについての議論を進めてまいりたいと思っております。

(司会)

ありがとうございます。それでは次の方、お願いいたします。

【11 ナラ枯れ・ブナ枯れ対策について】

【12 最上川沿いにさくらを植えることへの妥当性について】

【14 農業経営能力等向上のための研修に関する PR について】

☆楯山愛好会の者です。楯山、すぐそばの、200m ぐらいの山がありますが、そこで里山の保全活動をやらささせていただいております。またそれと、県の地球温暖化防止活動推進委員ということで、活動をいろいろやらささせていただいております。

今日は二つ質問というか、お願いがありまして、一つはナラ枯れの問題です。ここからちょっと今見えないんですけど、葉山が赤いんですよ、これ紅葉じゃないんです。8月からね、何かというと、上のほうはブナ枯れ、下のほうはナラ枯れなんです。



ブナのほうは何十年周期かで枯れるそうです、木から枯れることはないんですが、ナラ枯れはもろに全部枯れてしまいます。

私も実は愛好会の事業の中でこれは日本を代表する蝶々のオオムラサキという蝶々なんです。これの保全活動をやってますとですね、50年前ぐらいまではたくさんいたんですね、楯山に。それが2、30年前からもう全然いなくなったんで、なんとかわれわれの会でこれを呼び戻そうという活動を一生懸命やってまして、おかげさまで市の補助金もいただいていますし、県からは緑環境税も頂戴しました。ありがとうございました。

おかげさまで、3年前に戻ってきたんですよ。で、去年も今年も戻ってきたんです。ところがですね、里山である楯山にもナラ枯れがぼちぼちやってきてまして、このオオムラサキがこれしか食べないっていう木が枯れかかっているんですよ。

そんなこともありまして、県のこの、ナラ枯れに対する今後の対策、方向性っていうか、今、マスコミに随分取り上げられてますし、隣県への波及っていうか随分、秋田、宮城のほうまでとんでるようです。この県の動きと、緑環境税の今後の方向性についてお願いしたいのが一つです。

二つ目は、お願いというかですね、最上川の桜の話です。最上川の最近、水質はほとんど変わらんなんですけども、少し美観的にはきれいになったんです。これは何できれいになったか私いろいろ考えてたんですが、いわゆるあの、買い物の袋、レジ袋が有料化されたんで、ビニール袋あまり皆さん捨てなくなったんですね。

そんなことで、柳に引っかかっているビニール袋が減ったんで少しきれいになったかな、いうふうに感じているんですけど、今日の話はその話じゃなくて、桜の植栽の話です。

山形新聞グループが随分前からやっている「さくら回廊事業」という運動と、知事さんが顧問なさってるんですかね、「山形フォーラム」、「最上川フォーラム」というんですかね。これでやってる「桜街道」という二つの運動があるわけです。

この二つの組織がですね、上手くいってないんです。一回、山新の会長さんに掛け合ってもらったんですけど、お互いに方向性が一致しないもんですから、植え方もバラバラだし、どうもその全体的に植えた後の管理が不十分な気がしています。

桜ってのは結構面倒な木でございまして、天狗巢病だとかですね、あと、アメシロ、アメリカシロヒトリ、結構難しいんですね。

これは問題だと思うので、生物多様性の問題からしてもですね、ずっとこれを最上川の周辺に桜を植えるってことが果たして、妥当性のあるものなのかどうなのかを含めましてですね、県のほうでその二つのグループの構図性っていいですかね、植え方をどうしましょう、管理をこうしましょうみたいなことを交通整理をお願いしたいのと、植えることの妥当性についてお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。一つ目のナラ枯れですね。ブナ枯れのほうはですね、今お話あったかと思いますが、木が枯れてしまうことはなくて、数年で被害は終息するというふうな言

われております。

やはりナラ枯れがどんどん広がって拡大して、特になんか今年の猛暑のせいかなですね、拡大が加速化してるような感じを受けております。県内どこに行ってもナラ枯れが進んでいて、観光面でも良くないと、もちろん思いますし、本当にこれは課題だになっていうふうに思っております。

今まではですね、被害発生の先端地域でカシノナガキクイムシが入った幹に殺虫剤を注入して駆除してきたところなんですけれども、それがもう間に合わないくらい拡大してるっていうことであります。県でフェロモンを使った対策を考えまして、来年度から本格的にやっていくということにしておりますけれども、それが抜本的な対策かと言われれば抜本的なことでもないというふうに聞いております。やはり、里山といいますか、森や林の手入れをしなくなった。昔ですと、それを燃料に使ったり、また、炭を作ったんですね。いろいろ山の木を活用してたわけですね。県産材を使って家も建ててたし、そういうことがだんだんなくなってきて、人間が手入れしなくなってから、樹齢の長い木からナラ枯れになりやすいというふうのを聞いておりますので、森の再生を図るということも大変大事なことじゃないかなと思っております。

今お話に出てきました、やまがた緑環境税を活用して、伐採木をチップやペレットにして害虫を駆除する、そうやって切り株から若芽が出てきて、森が再生するという事業もやっております。

この他ですね、人が住んでる家の裏などに木がありますと、それがナラ枯れで倒れそうになったりすると大変危険なわけがございます。二次被害防止のために、市町村総合交付金、それから緑環境税も使って伐採処理というものも行っております。県と市町村と森林管理署とも連絡をとりながらですね、連携しながら、効果的な防除というものを努めていきたいと思っております。

それから、オオムラサキの保護活動をしておられるということで、大変ありがとうございます。これも本当に大事なことだと思いますので、これからも保護活動よろしくお願ひしたいと思っております。

それから二つ目のご質問の最上川の「花回廊」と「花街道」ですか。その二つの組織でやっているの、その交通整理をというお話であります。

またその前に、最上川に桜を植えること自体がどうなのかというようなお話でありますので、これは今、ここでお答えするわけにもいかず、持ち帰ってちょっと調べさせていただきたいというふうに思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

何も考えないで単純には最上川の周りにその桜が植えられることで、非常に春の景色が美しいわけですね。どうしてもそこだけが目に付きますけれども、その後の維持管理ということで、今、ご提言をいただいたわけでございます。持ち帰らせていただきます、どうもありがとうございます。

(司会)

それでは、次の方、お願いします。

### 【13 東北中央自動車道が農産物直売所に及ぼす影響について】

☆ ご指名いただきましてありがとうございます。ここから車で 15 分ぐらいのところの西のほうの岩野というところの出身でございます。

前段のほうで、中央、東北中央高速道路または農業関係のお話がでまして、重複するかと思えますけれども、そちら関係のお話をお願いしたいと思えます。

また、知事さんにおかれましては先月の敬老の日と本日、2回続けてのお越しいただきましてありがとうございます。

それでお話でございますけれども、昨今の地域おこしには **B** 級グルメと農産物直売所が必要不可欠なアイテムと言われております。私たちは **13** 号線の道の駅むらやまで **60** 人の仲間で農産物直売所まごころ広場というところをやっております。

本来ならば今日、会長が来るところでございますけれども、まだ稲刈りが終わってないということでございましたので、私、副会長と役員でやってまいりました。

そこで本題なんですけれども、日頃の産直活動の中で、思うところをお話したいと思えます。東北中央自動車道、ご存じのとおり関係者の皆さんのおかげをもちまして、東根と尾花沢のほうは開通しておりますけれども、当市はまだ開通しておりません。しかし、時間の問題ではないかと思っております。

また、東根以北は、通行無料の区間と聞いております。そうなれば現在の国道 **13** 号線は通行量激減するのは目に見えるところではないかと思っております。また併せて必然的に利用者は激減するものと思えます。そうすると市内の店舗の集客数にも大きく影響を及ぼすということも含めまして、われわれの販売活動、農産物直売のほうの影響が出てくるのは必然と思っております。

そこで、知事、農林課さん等の協力を得まして、去年産直関係団体の方々にお集まりいただきまして、このような現状を今後どういうふうに解決していったらよいかということなんかを話し合ったんですけども、もちろん結論が出るような話ではありませんので、今後そのような話し合いの中から私たちの意見を取り上げていただき、県、市、私たちと一緒に考えてくださるようお願いしたいと思えます。

以上が一つのお話でございます、もう一つが専門的な話になりますけれども、県農業会議と山形県農業支援センターというのが山形に事務所がありまして、山形県の農業関係の支援、外部団体的なところかと思えますけれども、農業者の支援をしているところであります。あるんですけども、なかなか広報活動が啓蒙なされていないということもありまして、農業者にも知らない方が多くあると思っております。

農業をやっているためにはなくてはならない情報や、ノウハウを蓄積している機関で私たちも研修会に参加したり、農業経営に、農業のために必要なメニューを用意しております。複式簿記もあるんですけども、そのような勉強もやっております。

もっともっと多くの農家の皆さんに利用していただきたく思っているところでございますので、関係する部署の皆さんからも県で広報をしていただきたいと思っております。以上2点でございます。以後、よろしく申し上げます。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。まず一つ目であります。東北中央道が延伸されることで産直の

道の駅むらやまですよね、私も何度も入ったことがございます。そのとこのお客さんが減るんじゃないかというようなご心配かと思えます。

おっしゃるとおり東北中央道が延伸されますと、車の流れが変わるかもしれないんですけども、またある意味では村山市への追加インターチェンジの設置も申請していくということがありますから、逆に県内外から多くのお客さんを引き込むチャンスというふうなとらえ方もできるのかなと思っております。といいますのは、高速道路無料化って実は西川町が何度か報道されたんですけども、あそこの高速道路が無料化されたことで、一般道路のほうが半減したんですよ、交通量が。それで渋滞は緩和されたけれどもお客さんが減ったというふう聞いております。

ただ、よくよく調べてみると、ある食べ物屋さんの数軒は、お客さんが増えたというふう聞いております。お客さんが減ったところもちろんございまして、その地域の魅力というものをね、やはり発信していくのが大事なんだろうなというふうに思っております。

どういふふうにして発信していくかということも考えていかなきゃいけないんですけども、今、おっしゃったように、関係者が一緒になって、アイデアを出し合って連携しながら地域の魅力をあげていくということが結構大事なんだろうと思っております。

ただ、本当に県内外から多くのお客さんを引き込むチャンスということを本当に考えたほうが良いと私は思いますのでね。危機といいますのは最初の一字は危ない、次の機は機会、チャンスですから、危険とチャンスとが一緒になっているのが危機という言葉ですから、プラスとマイナス両方の方向があるということをぜひ念頭におかれてですね、前向きにやはり、いろんなことにチャレンジして、お客さんを増やす方向でがんばっていかれたらいいのかなというふうに思っております。

もちろん、市さんとまた、県の総合支庁の下でできることを一緒になってやっていきたいというふうに思っております。村山市さんのお考えをぜひお聞きしたいと思えます。

(村山市長)

今、知事からあったように、やっぱり前向きの考え方を持たないと、と思っております。やっぱり東北中央自動車道がくる、インターチェンジも増やす。やっぱりそのことによって農工商の振興をどう図っていけるか。

併せて観光資源もありますから。東沢公園やら、真下記念館やら、最上川やらいろいろありますから、やっぱりそこにどう結びつけていくか。これは重要な町づくりの課題でありますから。今、その準備などもいろいろしております。

今、具体的に道の駅のまごころ広場が出たわけですが、内部では、企画課、そして建設課、そして農林課、商工課が一緒になって、前向きの村山市にいかにか人を連れてくるか。そして農産物をどう販売をするか。常にそこを考えながら、東北中央自動車道早期整備、そしてインターチェンジを増やしてもらう。それにあわせた地域振興を相談をしながらやってまいりますから。もちろん、県とも連携をとってがんばってまいりたいと思っております。

(知事)

はい、二つ目でございますけど、農業経営の安定を図っていくために、その規模の拡大、また、経営の効率化、他に総合産業化、農産物の加工販売、また、地域資源を活用した体験交流、そういったものを農家所得に結びつけていく6次産業化という言葉、使われてますけど、私は総合産業化という言葉も使っております、そういうことやっていくことで、付加価値の高い農業経営を目指す必要があるというふうに考えております。

従前のように生産だけとかですね、そういうことではなく、加工、販売、そういうところまでやることで、農業所得が高まるというふうに思っております。

おっしゃるように簿記研修、また農業経営というものを本当に大切な方向だというふうに思っておりますので、そういう講座、研修会ということをしっかりやっていきたいと思っております。

また、お話のありました、その農業、県の農業会議、そして農業支援センター、そういうところのピーアールなんですけれども、講座や研修会のピーアールにつきましては、県の農業情報サイト「やまがたアグリネット」に掲載しているほか、各市町村、JAなどにも協力をお願いしているところです。

今後はこうしたピーアールに加えまして、市町村や各JAが毎月発行している広報誌への掲載を広めていくということなどを行って、できるだけ多くの農業者の方に周知を図って、参加を呼びかけていきたいというふうに考えております。

それから今日、トヨタ関連の役員の方が知事室にいらしたときに、「売り方が大事なんだよね」って話になったんですね。ここ地元の酒屋さんのお話、固有名詞出していいんだかなんだか分からないけど、はい、とても素晴らしい売り方をしているって話になりました。

それから北海道のトマトジュースを紹介されまして、私は山形県のトマトジュースおいしいよって思わず言ってしまいましたけれども、とても売り方が上手なんだそうです。完熟トマトの限定販売ジュースというような形で、もう完売している状態だそうでありますので、その限定販売というようなことでピーアールすると、売れるんだよねというような話も出て、やはり、販売というやり方もしっかり勉強していかなきゃいけないんじゃないかなっていうふうに思ったところでございます。

そんなこんなところをひっくるめまして、どんどんこれからマーケティングとかさまざまな研修を行って、強い農業というふうになっていただきたいというふうに思っているところでございます。総合支庁のほうでそのことについて補足をお願いします。

(総合支庁)

産業経済部長です。第一問目のほうの産直の話なんですけど、総合支庁としては精一杯その直売活動の活性化、あるいはその直売活動をホームページでご紹介申し上げるとかですね、いろんな応援をさせてもらっています。

やはり庄内のほうが産直は、非常にかんがってやっている事例もありますので、産直施設そのものがですね、あるいはその地域、産直施設そのものがその地域色とか、特色をもってそれ自体が目的地となるよう、あるいは村山地域の他の観光施設との連携をさらに進めるとか、そういった面で応援してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから二つ目、知事から申したとおりでありまして、いろんな講座、せっかくためになる講座を、

たくさん用意していますので、その広報方については今後ともただ今のご意見を取り入れて、しっかりやっていきたいと思っております。

(司会)

次の方、お願いします。

【15 地球温暖化と森林総合整備について】

【16 ナラ枯れ・ブナ枯れについて】

☆環境保全と森林整備についてご質問、要望といたしたいと思えます。

温かい吉村県政実現のため、不肖私も県政に推進してまいりました。それで当選後直ちに後援会に入会させていただき、東北で初めての女性知事誕生と、表題を掲げ民主党広報誌に掲載させていただき、改めておめでとうございます。

長い間日の当たらなかった森林政策が民主党現政権の再生プランにのり、農林水産省の資料によると、コンクリート社会から木材社会へと大きく方向転換され、再生プランは**10**年間に木材自給率、昨年の**28%**から**50%**へと大きく変えようとしております。

わが国土面積の**70%**は森林面積であり、北欧フィンランドに次いで世界で2番目の森林大国であり、森林・林業再生プランは当然のことと思えます。むしろ遅きに失した感は否めません。

先の開戦後まもなく、わが国の森林業政策は山の奥地まで広葉樹林を伐採し、針葉樹を植栽し、反面、海外依存の木材輸入拡大策は諸外国の環境を破壊し、国土の荒廃、砂漠化、近年大水害による人的被害を招いており、わが国においても地球温暖化等、異常気象は松食い虫の被害から、今日ナラ枯れ現象を起こし、美しい眺めの景観を消失させており、連日のように報道される熊出没による農作物の被害から人的傷害までなすすべもない現実であります。

今日このような事態が起きようとはつゆ知らず、環境問題に関心をいだいて、**1980**年、**50**の手習いと申しますか、国より払い下げいただいた森林所有共有林に参画し、今日まで森づくりに励み、**30**年弱を経過し、今つくづく健康のありがたさを実感してるところであります。

その間**1997**年6月に台風6号による大雨で、これまで懸命に育林した杉の樹木とともに山肌が崩落をきたし、見るも無惨な姿に変わり果て、一時はこれまでの環境保全育林事業をやめようかと思いましたが、村山市当局を始め、当時の高橋和雄知事県政の森林大災害普及に対する全面的なご支援とご協力等による3ヵ年で約3億円の建設費を投入し、完成をみることができ、心より感謝申し上げる次第でございます。

私どもの公有共有森林は約**5ha**。山の頂上まで車で行っての作業。育林に時間の許す限り励んでおりますが、年輪をおうごとに作業林道も損傷し、頂上まではスリップして上れない状況が続いており、採石を埋設しなければならない状態。

ましてや平成9年、県の保安林の指定林にもなり、関係市当局に数回採石の補助をお願いしておりますが、未だに快いご回答がございません。

本年も春の雪おろしから、刈り払い、除伐、枝払い、まもなく延べ**50**日にもなりますが、森づくりと地球環境を守るために働いている人々の思いを市当局をはじめ、温かい吉村県政は素直に国へ

要請することが責務であろうと思います。

山形が育んだ鹿野道彦農林水産大臣、絶好の機会を活用されるよう希望してやみません。時間の都合上、事務組合その他5項目ありますが、提出しときますので、よろしく願い申し上げます。以上です。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。本当に林業、森林というのはとても大切なものだと思っております。私自身も大江町の生れでありまして、林業をやっている親戚もございまして、同級生も今林業やってる人おります。山は宝だというふうにずっとご先祖様から聞いて育ってきております。

そうですね、作業道の維持補修に対する支援につきましては総合支庁のほうで今、答えてもらいますけれども、本当に地球温暖化防止ということが世界的な命題になっている今日ですね。森林というものをしっかりと見つめ直して、それは国の宝、県の宝ということで、しっかりやっていかなければならないというふうに思います。

二酸化炭素の吸収源としての役割もございまして、それから、国の **10** 年後の木材自給率が **50%**以上というふうな森林・林業再生プランを策定しておりますのでね、そのこともこれまでの林業政策の抜本的見直しを進めるということになっておりますので、持続的な森林経営が可能となることを国と一緒に目指していきたいというふうに思っております。

熱心に林業に取り組んでこられた方を引き続き、できるだけ支援してまいりたいというふうに考えております。先ほどの作業道の維持補修に関して総合支庁のほうから答えてください。

(総合支庁)

産業経済部長です。事務的な答えになるかもしれませんが、作業道についてお話しすると、作業道開設する際、森林の作業、間伐とか、そうした作業するときに、作業道開設するわけですけども、そうした場合に補助という制度はございます。

ただ、作業道の性質をみてみますと、森林所有者あるいは事業所の方が、森林作業を行う場合に一時的に使用する目的で整備すると。こうした原則になっておりまして、その維持管理のほうについては、国、あるいは県のほうには残念ながら制度はございません。

維持管理については基本的に所有者の方が自ら行っていただくというふうな建前になってございます。ただ、そうした中でも村山市さんのほうで何か制度があるようなお話お聞きしてますので、教えていただければと思います。

(村山市長)

大変厳しい。考え方は私は県と同じです。ただ、やっぱり作業道の整備、県の事業が終わったからは構わないよと、それに対するお叱りだと思いますから、やっぱり原材料費、あるいは機械の借上げなどのやっぱり半分ぐらいの補助、なんかやっぱり市としても今後検討すべきだと思っております。そのように前向きの検討させていただきたいと思っております。

(知事)

それから、農林水産大臣、今おっしゃったように、山形県が育んだ人でありまして、鹿野道彦さんが農林水産大臣になったわけです。何かの折にお話したときに「林業、作業道が大事なんだよなあ」というふうにおっしゃっていたんですよね。ですから、お伝えしていきたいというふうに思っております。